

# ASUNARO Award の旅:

日本と台湾の小児歯科の思い出深い交流



あすなる小児歯科医院



**Ching-Min Huang**

台北医学大学 小児歯科研修医

来日期间: 2024年12月2日 - 12月5日

まず始めに、「ASUNARO Award」を授与してくださった佐野先生と日本小児歯科学会（JSPD）の皆様にご心より感謝申し上げます。台湾初の受賞者となり、日本への有意義な旅に参加できたことを大変光栄に思います。また、私の指導教官である Nai-Chia Teng 教授、台湾小児歯科学会（TAPD）副会長の Hsuan-Lu Alicia Ko 先生の貴重なご指導とご支援のおかげで、この経験を本当に充実したものにする事ができました。

**2024年12月2日**

JSPDの方々に温かいご配慮をいただき、私たちは新阪急ホテルで快適に過ごすことができました。

その夜は、仲野先生と田中先生、そして他の JSPD メンバーに、日本料理「由多嘉」で楽しい歓迎の夕食会を開催していただきました。美味しい料理と楽しい雰囲気の中、日本と台湾の文化の違いや小児歯科に関する話題で盛り上がりました。今回の素晴らしい旅の最高の幕開けとなりました。



JSPDの方々と日本料理「由多嘉」での楽しい夕食会（受賞者：前列中央）

2024年12月3日

翌日は、大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座の仲野教授、大川准教授、鋸屋助教をはじめとする歯科医師の先生方と、同附属病院障害者歯科治療部の村上講師に温かく迎えていただきました。

小児歯科学講座では、背もたれの調整にかかる時間や機械的動作の不快感を最小限に抑えることができる水平型のデンタルチェアなど、診療室の設計において優れた特徴をいくつか見学しました。また、デンタルチェア本体にハンドピースを内蔵することで、省スペースを実現し、配線の乱れを防いでいるそうです。ネット付きのレストレーナーを用いて二重に巻くことで、低年齢の患者に安全で安定した固定を提供していました。他にも、診療室には先進的なカメラシステムが設置されており、リアルタイムで歯科医師の手技を観察することができることから、学生の臨床手技に対する理解を深めるものでした。

大阪大学歯学部附属病院のもう一つの素晴らしい点は、非常に詳細な初期評価用紙を取り入れていることでした。保護者は、食事内容、分量、食事時間など、子どもの食事習慣について、その初期評価用紙に1週間分記録することを求められます。これにより、歯科医師は子どもの食生活と口腔の健康との関係をより深く理解することができます。さらに、一貫性のある段階的な診療体制は、包括的かつ段階的に治療を進めることを考慮されたものであり、患者のトータルケアを重視して、子どもにとっての真のデンタルホームを確立することを目指しています。



仲野教授、大川准教授と大阪大学歯学部玄関にて

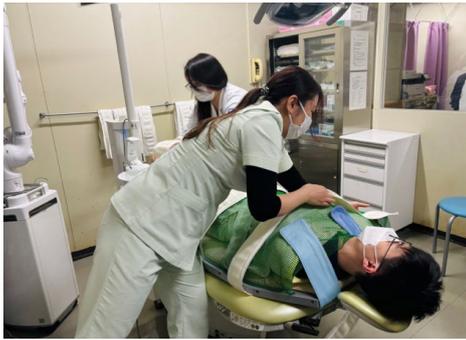


教育用カメラ（鋸屋助教）

生活習慣記録表(食事カード) お子さんの1週間の生活を、例にならってご記入下さい。  
記入方法: お茶、お水も含め、お子さんが実際に飲食したものをすべて、できる限り詳しく、時間と量で記入して下さい。  
食事を行った時刻に、お子さんのみのおしは▲を、保護者の点検時刻もしくは時刻には●を記入して下さい。(小児科)

	月	日	時	月	日	時	月	日	時	月	日	時	月	日	時
朝食	07:30	08:00	08:30	09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	
	08:00	08:30	09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	
昼食	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	
	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	
夕食	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	21:30	22:00	22:30	23:00	23:30	24:00	24:30	
	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	21:30	22:00	22:30	23:00	23:30	24:00	24:30	25:00	

食事記録用紙



小児歯科診療室の見学

次に、障害者歯科治療部を訪問し、設備の整った施設を見学しました。脳性麻痺の患者さんをサポートするクッション、自閉症の患者さんを落ち着かせる重さ付きのブランケット、治療ステップを説明するための絵カード、視覚障害のある患者さんが実際に触って理解できる触覚歯型模型、嘔吐や食べこぼしがあっても丈夫で洗浄しやすいよう網目設計になっているレストレーナーなど、配慮が行き届いていました。また、車椅子の患者さんがスムーズに移動できるよう、滑り止めや衝撃吸収マット、昇降式配線を採用していました。このように細部にまで、特別な支援が必要な患者さんに対する温かさや思いやりが感じられました。



障害者歯科治療部にて村上講師（前列中央）と



脳性麻痺の患者さんを支える特別なクッション



視覚障害者のための歯型模型



7kgの重さがあるブランケット



網目設計のレストレーナー



治療ステップを説明するための絵カード

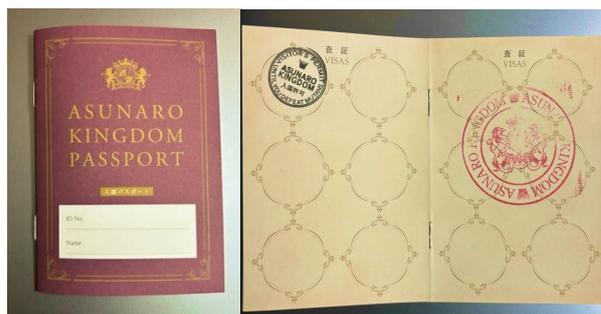


車椅子のまま入れる診療室

大阪大学歯学部附属病院の見学の後は仲野教授に同行していただき、新大阪駅からサンダーバードと北陸新幹線に乗って富山県の佐野先生の医院「あすなる王国」を訪問しました。医院の雰囲気は、一般的な臨床の場とは一線を画していました。その名に象徴されるように、医院の中は子どもたちにとって夢の国であり、喜びに満ちた魔法のお城のようでした。隅々まで考え抜かれた装飾が施されており、スタッフはディズニーのようなコスチュームに身を包んでいました。陽気な歌声に包まれながら正しいブラッシング法を学んだり、上手に診療を頑張った子には景品が当たる射的で遊んだり…。この陽気で遊び心にあふれた環境に魅了され、ここに訪れる子どもたちは本当に恵まれていると感服しました。



新大阪駅にて



パスポートのようにデザインされた診察カード



佐野先生とあすなる王国にて



天使が歌を歌いながら歯磨きについて指導している様子





あすなる王国の見学と活動体験の様子



見学後の振り返りとディスカッションを行っている様子

この日の終わりには、佐野先生がレストラン「ケンタロウ」で楽しいイタリアンディナーをご馳走してくださり、私たちは旅、料理、音楽について語り合いました。佐野先生の洗練されたライフスタイルと多彩な才能に、私は深い感銘を受けました。その後、私たちはホテル JAL シティ富山でゆっくりと休んで1日を終わりました。



レストラン「ケンタロウ」での楽しいイタリアンディナー

大阪大学歯学部附属病院とあすなる王国を訪れ、私は日本と台湾の小児歯科および障害者歯科に対するアプローチの違いを目の当たりにしました。日本の子どもたちは、治療中のコンプライアンスが良く、行動も落ち着いていました。小児歯科を取り巻く環境をより良いものにするためには、社会的な健康教育を充実させ、国民の口腔衛生に対する意識を高めることが重要であると考えさせられました。

もうひとつ注目すべき違いは、健康保険制度の地域差です。台湾では、治療に関する患者さんの希望が医学的なアドバイスよりも保険診療の方針によって左右されることがあり、治療の質が損なわれる可能性があります。このことは、経済的な要因によって治療の質が左右されないよう、改善策について検討を促すものであると考えます。

特に医院の設計や一連の治療の流れにおいて、日本の歯科医師が細部にまで気を配っている姿は、本当に感動的でした。また、歯科衛生士との熟達した連携は、高度な業務の分担と包括的な患者ケアを可能にしています。歯科衛生士制度の普及を阻む障壁を克服し、歯科医師と歯科衛生士の連携のバランスを模索することが、台湾にとって不可欠な課題であると思いました。

最も重要なことは、定期検診によってう蝕の有病率を大幅に減少させ、子どもに優しい歯科医療環境を作り出そうとする佐野先生の献身的な姿を目の当たりにし、深い感動を覚えたことです。小児歯科の最終的な目標は、単にむし歯を治療することではなく、生涯にわたる口腔の健康習慣を促進することであることを再認識させられました。

2024年12月4日

佐野先生のご厚意とお計らいで、北陸文化の薫り高い金沢市を巡る旅で、初めて着物を着るというまたとない機会に恵まれました。爽やかな気候の中、東茶屋街や兼六園など、金沢を象徴する観光地を巡りました。

昼食は東茶屋街の「武右衛門 音ゆ」で美味しい蕎麦を堪能し、デザートには「白一 東山店」で金箔ソフトクリームをいただきました。東茶屋の趣のある歴史的な街並みを散策した後、日本三名園のひとつである兼六園に向かいました。秋の終わりに訪れたことで、幸運にも鮮やかな紅葉とイチョウが景色を明るく照らしていました。



兼六園の美しい紅葉



金沢観光：着物体験付きの東茶屋街と兼六園散策

夕方には栴田酒造店を訪れました。バー、カフェ、レストランなど、美しく改装された施設を見学しました。その後、「磯料理 松月」にて佐野先生主催の夕食会が行われ、富山名産の白エビをはじめとする海の幸を堪能しました。夕食中、私たちは小児歯科の課題について話し合い、より緊密な日台連携による解決策を探りました。また、佐野先生からは、子どもたちの口腔衛生の向上という使命に忠実であり続けるよう励まされ、深い感銘を受けました。



栴田酒造店の訪問とカフェ・バー・レストランの風景

旅の締めくくりは、「磯料理 松月」での心温まる素晴らしい夕食でした。

佐野先生、仲野先生をはじめ、日本小児歯科学会の皆様の温かいおもてなしとご配慮に感謝申し上げますとともに、日台小児歯科界の学术交流と友好親善をより深め、子どもたちの口腔ケアの明るい未来を築いていきたいと思ひます。

#### 〔国際渉外委員長より〕

今回は TAPD から受賞者 1 名のご招待でしたが、TAPD ならびに台北医学大学の先生方のご配慮で 5 名の歯学生が自己負担でこの交流に参加されました。2 日間にわたり、6 名の若者たちと未来を見据えて小児歯科に関する様々なディスカッションができたことを、大変うれしく思ひます。今後の JSPD と TAPD の連携強化にもつながる意義深いイベントになったと思ひます。

仲野 和彦